

2024.06.20 版

2024 年度 第 20 回「若手研究者支援プログラム」のお知らせ

奈良女子大学古代学・聖地学研究センターは、第 20 回「若手研究者支援プログラム」を、8 月 26 日(月)に、科学研究費基盤研究 B「平安期における古代漢文学の質の変容解明にむけた空海作品からのアプローチ」・同基盤研究 C「歌における説話的意匠の形成」・同基盤研究 C「中国初学書・実用書の受容実態から解明する後期萬葉和歌の特質」との共催で開催させていただきます。今回も前回と同様、奈良女子大学にて対面形式のみにて開催いたします。

前回の本プログラムにおいて上代から平安時代にかけての「下級官人の文学」をとりあげた際、彼らの漢籍についての知識教養の形成の過程とその内実を、より広く比較文化史的観点から理解することの必要性が浮かびあがってきました。

そこで、今年度は、「辞書と類書」を大テーマとし、辞書や類書が、当初中国でそれらが必要とされ成立するにいたる経緯と、やがて日本にもたらされ古代日本文学に受容されていた実態、及び日本語・日本文学の知の枠組みの形成に与えた影響の諸相について学ぶプログラムを開催します。日本の国語学分野では文字・表記論がご専門の尾山慎氏、中国文学分野では唐代の勅撰類書研究がご専門の大淵貴之氏、日中文化交渉史の分野では日本の中国典籍受容史の研究がご専門の池田昌広氏に講師をお願いし、それぞれのご専門の立場から語彙を巡る諸問題、辞書や類書をめぐる諸問題についてお話しいただくことにいたしました。ご講演の後には、参加の若手研究者が各講師に質問を行う時間を設けます。

古代日本文化に中国の辞書や類書の与えた影響は非常に大きく、それらが官人層の知識教養の基盤を形成し、日常的な文筆活動において大いに参照・利用されたことは言うまでもありません。しかし、辞書・類書の成立事情や本来の性格、及び中国・日本における利用実態については、なお不明な点が数多く残されています。同時に、和語、漢語、外来語といった日本語の語彙体系の実態、或いはそれをめぐる研究上の術語についても様々な問題があります。本プログラムを通して、少しでも多くの若手研究者がこの問題に関心をもってくださることを願うとともに、日本の国語学・国文学のみならず中国語学や中国文学、或いは日中比較文学の研究者にも新しい視点や考え方を提示する機会となることを願っております。

本プログラムは、主に日本古代の語学・文学分野の若手研究者の研究支援を目的としていますが、幅広い世代の専門研究者或いは一般の方々の御参加を歓迎しております。年齢やキャリア、専門分野などを問わず、多数の方々が御参加くださることを期待しております。なお、大学および研究機関等で御指導に当たられている先生方におかれましては、ぜひ大学院生・研究生諸氏に本プログラムを御紹介くださいますようお願い申し上げます。

奈良女子大学古代学・聖地学研究センター
若手研究者支援事業担当 奥村 和美

第20回「若手研究者支援プログラム」

辞書と類書

主催 奈良女子大学古代学・聖地学研究センター

共催 科研費基盤B「平安期における古代漢文学の質的変容解明にむけた空海作品からのアプローチ」(代表：筑波大学 谷口孝介名誉教授)
科研費基盤C「歌における説話的意匠の形成」(代表：淑徳大学 白井伊津子教授)
科研費基盤C「中国初学書・実用書の受容実態から解明する後期萬葉和歌の特質」
(代表：奈良女子大学 奥村和美教授)

日時 令和6年8月26日(月)

会場 奈良女子大学 文学部N棟202教室

※オンライン形式の併用はいたしません。対面のみです。一般来聴を歓迎します。

※研究者としてご参加の場合、令和6年8月19日(月)までに、事前申込み下さい。

※天候や災害等の状況によっては、大幅に予定を変更することもございます。変更する場合は、奈良女子大学HP上にてお知らせいたします。

講演(無料) 11時00分～17時(入場10時30分～)

和語・漢語・字音語 一語彙論と表記論のはざまー

講師：奈良女子大学准教授 尾山 慎

(昼休み)

『藝文類聚』の編纂経緯及び現存テキストの注意点について

講師：鹿児島大学准教授 大淵 貴之

日本人と類書

講師：京都産業大学教授 池田 昌広

・司会：奈良女子大学教授 奥村 和美



お問い合わせ：

奈良女子大学古代学・聖地学研究センター

E-mail: kodaigaku@cc.nara-wu.ac.jp

事前申込: <https://forms.gle/4HawBBEGBroS8bSy9>

(電話にてのお問い合わせはご遠慮ください)

事前申込

